



干支学から見る丙午年の傾向

暦作家・東京恵比寿 RC 井上象英様

2025年は、昭和100年であり戦後80年という年でした。トランプ関税から始まり、日本の政治も含めて様々変わりました。また大谷選手の活躍や大阪万博の成功もありました。

経済は不透明と言われつつも順調に成長しており、日経平均株価が5万円や6万円を目指すような勢いがあると感じています。寅年から始まった上昇気流が続いている、経済・政治・AIなどの新しい分野が活性化しています。

2026年は「丙（ひのえ）」と「午（うま）」が重なる年です。どちらも五行で「火」を象徴し、重なると強い「炎」のような勢いを持ちます。そのため「今年は景気が非常に良くなる最後の年」であり、何かを始めるなら今のうちになります。

「一白水星」が中宮に位置するため「水」の要素が絡みますが、これは火を消す水だけでなく「油（オイル）」も象徴します。そのため、石油関連や世界経済の動向には注意が必要であり、内需を固めることが重要です。政治面では、古い慣習を打破する思い切った改革が必要な年であり、新しいシステムの構築が求められます。

丙午の強い火の勢い（景気）がありますが、そこに一白の「油」が注がれるか「水」がかかるかで結果が変わるために、自分の立ち位置（九星）を知り、適切なタイミングで薪をくべたり、火の粉を避けたりする準備が重要です。

2026年（令和8年）

丙午：一白水気性（ひのえ・うま・いっぽく）

干支の起源は中国の殷の時代に遡り、紀年法として天の氣（干）と地の氣（支）、人の氣（九星）のそれぞれに意義と働きを持たせ、政治活動や天変地異を予測する卜占に使われています。その内容は、人生の在り方、人間が“自然と共に暮す”ためのメカニズムを説明しています。

丙（陽火） 十干の三番目。五行では火性（火の兄）の陽気で方位は南。季節は夏。本義は「炳（あきらか）」で甲から始まった植物の成長はピンと張った双出の芽の姿に似て最盛期を迎えている。その意義はまさしく“あきらか”で輝く様子を表しています。また、丙は「一」と「門」（かまえ）に「入」で構成された会意文字。万物が成熟し「炳然」と整う様子をあらわして、その囲いを超えてでもさらに伸びようとする生命エネルギーの力強さ、「柄」（ちから）を意識する必要があります。

午（陽火） 十二支の七番目。五行では火性の陽気。方位は真南。月では陰暦の5月（新暦では6月）。季節では夏至になる。時間は午前11:00～午後1:00の間の時。また、象形はウスの中に入れた穀物を突く道具の「杵」をさし、説文では「午（さん）」。「陰気午逆し（さかし）、陽気地を冒して出づ」時とあり、陽気が地上を冒して陰気とぶつかり合う姿。つまり、万物は繁茂して実を結

び、折り返しの周期に入るのです。そして、「午」は動物で馬を象りますが、午は「忤」（さからう）意味もある。新時代の幕開けを暗示し、蹴られ疾走に注意しなければならない。

一白水気性 方位では北方（30度）を定位位置としています。五行は陽の水性。易卦は「坎」で、象意は「陥る」であって、世の中の矛盾と混乱、閉塞感を象徴する星とされる。ただ、この水は大地から湧き出る生命根源の水で純粋で無色。高き所から低きに流れ、金や人の流れをも象徴します。また、水は目に見えずと蒸気や空気のように目に見えない空間での存在としても重要で、自然のあらゆるところで見逃せない働きを生み出し、窮すれば通ずる正義の道を説いています。

干支や星が重なる 過去の歴史

弘化3年（丙午・一白）

江戸の大火。外国船の来航が増す。天皇が海防衛の勅を下す。

大正7年（戊午・一白）

シベリア出兵始まる。米価高騰続く。大正の米騒動。内閣の改造。

昭和11年（丙子・一白）

一二六事件。中国西安事件。九州地方豪雨。大本教解散命令。

昭和41年（丙午・七赤）

黒い霧事件。米価格の高騰抑制。反戦スト多発。全日空機墜落。

平成2年（庚午・一白）

バブルが崩壊。湾岸戦争始まる。即位の礼と大嘗祭。米問題。

平成20年（戊子・一白）

景気停滞へ。岩手宮城内陸地震。後期高齢者医療制度開始。



— 午年や一白年の傾向 —

今年の傾向として、囲いの中に入り込むとする「丙」に対し「午」はそれを良しとしない焦りとイラ立ちが見えます。過去から引き継がれてきた因習や伝統に対して更なる改善や、思い切った改革（枝切り）が加速する周期にはいる今期、政界の汚職や隠ぺい問題は表面化するものと、雲隠れするものとが対照的に露見する傾向にある。これに対して如何に対策し対処してゆくかが重要です。派閥は解消されたかのようだが、枯れ木に新芽が誕生する兆も見える。例え解散総選挙があったとしても、政治家は国の行く末を論じ、国益主導の政策を論戦してほしい。経済界では、AI革命や国境を越えて巨大化するIT企業、見えない世界での技術革新に株価も上下、翻弄されるかも知れません。また、ネットテロ対策など今まで考えられなかった企業戦略、保護貿易に向けた法整備、世界に向けた経済活動も大きく変貌してゆく節目の一年になる。自然界では山火事や街を飲み込む大火災、暴雨風被害など午年に多いことは史に残る。

今年のキーワード：「陽気と陰気のせめぎあい」

福運宮 外交術 人間関係	頂上宮 評価作用 確認義務	準備宮 将来設計 人脈確保
開運宮 有言実行 決断力	中宮 補給作業 身辺整理	喜楽宮 巧言令色 寛容性
変化宮 改善改革 一期一会	困難宮 質の向上 内部強化	強運宮 千載一遇 奉仕活動

(運気のサイクル)

九	惠方:五黄殺	七
八	一	三
四	暗劍殺:歲破	二

(今年の星盤)

【九星別の運勢アドバイス】

- 一白水星：過去の整理と形を整える年。人間関係は数より質を重視すべきです。
- 二黒土星：チャンスは数ヶ月しかないので、早めのスタートが肝心です。
- 三碧木星：言葉や伝え方が重要な年です。夏までにやりたいことを動かすのが吉です。
- 四緑木星：変化の時期ですが、無理に押さず静観することが大切です。仲間が助けになります。
- 五黄土星：偶然が重なり努力が報われる年です。目標を一つに絞って邁進してください。
- 六白金星：主役より脇役に徹して実力を蓄えるべき時です。苦手分野の克服に充てると良いでしょう。
- 七赤金星：「雨降って地固まる」時であり、着実な努力が将来の土台となります。
- 八白土星：運気が向上し、行き詰った問題も解決に向かいます。やりたいことは即実行してください。
- 九紫火星：行動範囲を広げることで収穫があります。予算管理をしっかり行なうことが注意点です。